

月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

March 2020 3

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可
2020年3月1日発行(毎月一回発行)第747号

● 出会い・本・人

祈祷書のテキスト 松島雄一

● 特集「パウロ」について学ぶなら

この三冊! 山口希生

● エッセイ

新井明選集(全3巻)完結によせて 西永 頌

デニス・アレクサンダー著『創造か進化か』の翻訳を終えて

小山清孝

● 本・批評と紹介

小泉 健著 十字架への道 吉村和雄

G・ジョーンズ、C・ムセクラ著/岡谷和作、藤原淳賀訳

赦された者として赦す 金 迅野

G・クラーク著/松崎一平、佐藤真基子、松村康平訳

アウグスティヌスの母モニカ 出村和彦

エリカ・ガイガー著/梅田與四男訳

エルムート・ドロテアフォン・ツインツェンドルフ伯爵夫人

立山忠浩

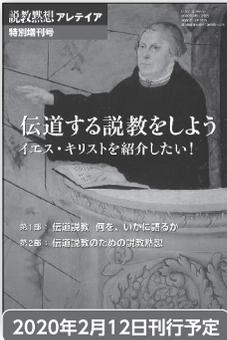
鎌野善三著 3分間のグッドニュース「律法」 坂野慧吉

岡部一興著 長谷川誠三 大西晴樹

渡辺善太著 善太先生「聖霊論」を語る 辻 哲子

近刊情報

書店案内



2020年2月12日刊行予定

教勢危機の今に向けた緊急出版。教会の再生は説教の再生から！

説教黙想アレティア 特別増刊号

伝道する説教をしよう

イエス・キリストを紹介したい！

教会外の方に福音を伝える説教であり、教会員に伝道への情熱を与える説教である伝道説教をどう語るか。旧新約聖書から《聖書名場面》とも呼ぶべき25箇所を精選して解説。◆B5判・128頁・2,200円

シリーズ
好評発売中

説教黙想アレティア
特別増刊号 各2,037円

『受肉の驚き —今、クリスマスはいかに語るか』
『見よ、この方を！ —今、復活と十字架はいかに語るか』
『死に勝つ慰め —葬儀説教はいかに語るか』

クリスチャン精神科医から、子育てのヒントに満ちた四季のおたより

神さまが見守る子どもの成長

誕生・こころ・病・いのち 石丸昌彦

神さまの愛のまなざしを注がれて、ゆっくりと大きく成長する子どもの魂。その豊かさを存分に味わう、クリスチャンで精神科医の著者による新しい子育ての道しるべ。◆四六判 並製・160頁・1,760円

好評
発売中

『子どもとつむぐものがたり
—プレイセラピーの現場から』 小嶋リベカ 1,650円



2020年2月21日刊行予定

2020年3月公開の映画『ハリエツ』の予習に最適な絵本



好評
発売中

ハリエツの道



キャロル・ボストン・ウエザフォード 文
カディール・ネルソン 絵 さくま ゆみこ 訳

19世紀アメリカで、黒人奴隷として抑圧されつつも自らの手で自由をつかみ取り、多くの黒人奴隷を救い出したハリエツ・タブマン。神の助けを信じ、「女モーセ」「黒人モーセ」と呼ばれた黒人女性の半生を描く。◆298×273mm 上製・48頁・1,980円



祈禱書のテイスト

松島雄一

朝のトーストを手に「俺に一番身近な本は何だろう」、そうつぶやくと、妻が「聖書?」と…。「違うな」、私は先ほどアイコンに向かい唱え終えた祈禱書を指さしました。

正教会では自由祈禱の習慣はなく、古代から教会で唱え続けられてきた祈禱文に祈りを託します。特に朝晩の祈禱は、目覚めてすぐに朝食の前に、また夕食の前に、就寝前に唱えられて、信仰生活にリズムを与えています。

最近、説教集『神の狂おしいほどの愛』（ヨベル）を上梓しました。本の帯に「正教会ならではの斬新な聖書理解」とあります。「斬新な」という評価は伝統を重んじる正教会では否定的な響きを持つことが多く、少々困惑なのですが、正教会外の方々にほんとは「斬新」と受け止められるとしたら、私の語り口に祈禱書を通じて身についた正教独自のテイストが反映しているのかもしれない。

「:願はくは、我が信を以て行いに代へん。我が神よ、敢へて我を義とする行ひを求むるなかれ。願はくは、彼の信は万事の欠くるを補はん、:乃ち我が欲するも我を救ひ給へ。欲せざるもハリストス我が救主よ、急ぎ急げよ、我ほとんど滅びんとす:」（朝の祈禱 第八祝文）

「:主よ、我欲するも、欲せざるも、我を救ひ給え。爾はただ義人を救ひ給はば、何の大なることかあらん。清き者のみ憐れみ給はば、何の驚くべきことかあらん:」（就寝前の「ダマスクのイオアンの祝文」）

まことに手前勝手な祈りです。人の救いは信仰によるのか行いによるのか、救いに自由意志がどう関わるのかなどという、おなじみの教理的 주제など、どこかに吹っ飛んでしまいます。ある意味で、まことに爽快です。

（まつしま・ゆういち 日本ハリストス正教会教団大阪教会管轄司祭）



「パウロ」について学ぶなら ▶▶▶『三冊!』

山口希生

(やまぐち・のりお・東京基督教大学共立基督教研究所研究員)

教父たちによる伝承がありますが、それらを入念に比較・検証していく必要があります。本書はその作業をバランスよく行い、パウロの宣教活動の輪郭を丁寧に描き出しています。

キリスト教最初期の時代には、諸教会の間にはモーセの律法を守るべきかどうかについて様々な立場がありました。それらは神学的というより、牧会的な要請から生じる違いでした。ユダヤ大祭司の管轄下で礼拝を守っていたエルサレム教会では、敵対的なユダヤ社会の中で教会の存続が容認されるために、律法を厳守する必要がありました。エルサレム教会の信徒たちが律法を無視しているとの風評が立てば、当局に教会を迫害する口実を与えてしまうからです。エルサレム教会の指導者であった主の兄弟ヤコブが、大祭司により律法違反の嫌疑をかけられて殺害されたことから、この点は明らかで

ストの恵みから落ちると警告する一方、律法を全うしなさいとも教えています。以下では、一見矛盾しているように思えるパウロの律法についての教えを理解する助けとなる三冊を紹介します。

佐竹 明著『使徒パウロ』

まず、パウロの生涯そのものに焦点を当てた一冊です。パウロの歩みを歴史的に再構築するための資料としては、パウロ自身の書簡、使徒言行録、碑文などの考古学的発見、そして教会

パウロの時代のユダヤ教における救いの根拠は神によるイスラエルの選びであり、律法遵守はその選びの恵みへの応答だ、と論じたのです。換言すれば、ユダヤ教もキリスト教と同じく、恵みの宗教であるということです。この理解は、パウロがユダヤ教の自力救済的な努力を批判し、恵みのみによる救いを掲げた、という伝統的な見方に疑問を投げかけるものです。サンダースによれば、パウロはキリスト以外のものが救いの手段となることはあり得ないという確信を抱いていました。律法は救いの道とはなり得ないというのは、そこから導き出される論理的帰結です。ではなぜ神は救いを与えられない律法をイスラエルに与え、彼らを律法の下に千年以上も置き続けたのか、という難しい神学的課題にパウロは取り組んでいたのです。

パウロ神学の根底にあるのは「古い

使徒パウロはキリスト者ならだれもが知る、偉大な伝道者にして神学者です。彼の書簡から伝わってくる、ほとばしるような情熱と知性のひらめき、そして情愛の深さはキリスト教二千年の歴史の中で数えきれないほど多くの人々に深い感銘を与えてきました。しかし、パウロの書簡には難解さも含まれています。とりわけ理解が難しいのはパウロの律法に対する態度です。パウロは律法を行おうとするキリスト者に対し、そのようなことをすればキリ

E・P・サンダース著『パウロ』

二〇世紀のパウロ研究に最も影響を与えた書として、必ず名前が挙がるのがE・P・サンダースの *Paul and Palestinian Judaism* (未邦訳) です。サンダースはその他にも、パウロについて重要な著作をいくつか執筆していますが、それらのエッセンスがまとめられているのが本書『パウロ』です。

サンダースの著作群は、革命と呼ばれるほどの大きなインパクトを新約学界に与えましたが、彼が提起した新しい視点とは主にパウロの時代のユダヤ教に関するものです。伝統的なキリスト教神学では、キリスト教の救いの条件はキリストへの信仰のみであり、行いは救われたことへの感謝の応答であるのに対し、ユダヤ教では自らの努力で救いを勝ち取るために律法の行いを熱心に行なわなければならない、とされてきました。しかしサンダースは、

す。他方で、異邦人信徒とユダヤ人信徒が混在していた異邦人の地に立てられた教会においては、食事規定などの律法を墨守しようとするれば、それを守れない異邦人信徒と、守ろうとするユダヤ人信徒との間で分裂が生じる危険があります。つまり、エルサレム教会の場合とは反対に、律法の厳守が教会存立の危機を招いてしまうことになるのです。パウロは異邦人への使徒として、異邦人信徒の立場を擁護しつつ、律法を重視するエルサレム教会との関係を維持することにも腐心しました。パウロが命の危険を感じつつも、エルサレム教会に異邦人信徒たちからの献金を届けようとしたのも、そのような理由からでした。本書では、こうした事情が分かりやすく解説されていて、パウロの行動の動機や、彼の律法に対する複雑な態度について、読者の理解を助けています。

世界」対「新しい世界（創造）」という歴史認識・世界認識です。パウロの書簡にしばしば登場する〈罪〉は、人間を束縛し、奴隷として支配する宇宙的な力として捉えられています。〈罪〉の奴隷となっていて人間は罪を犯さずにはおられず、律法には人間を〈罪〉の支配から解放し、律法を全うする力を与えることはできませんでした。しかし、〈罪〉の力が支配する古い世界はイエスの十字架と共に過ぎ去り、イエスの復活によって新しい世界が始まった、キリスト者はキリストの死と復活に参与することでこの新しい世界を生きるのだ……、これがパウロの救済理解のエッセンスであると、サンダーは論じています。そして新しい創造の現実を生きるキリスト者は、聖霊の力によって律法を全うできるのです。

ジェイムズ・ダン著『使徒パウロの神学』

を受けている人は、それによって自らを選びの民であるイスラエルに属していることを示すことができます。選びの民に属する者は、神との正しい関係にあり、それゆえ義とされるのです。パウロが批判した「律法の行い」とは、イスラエル民族だけが選びの民である

入門書と呼ぶにはあまりに大作ですが、パウロの神学を包括的に学ぶのに最適なのが昨年邦訳されたジェイムズ・ダンによる『使徒パウロの神学』です。とはいえ九〇〇頁以上もある大著なので、どこから読み始めればいいのか分からないうという読者の方には、第4部の「救いの始まり」から読み進めるのも一考です。特に、先に紹介したサンダーの『パウロ』を読んだ後に当該箇所を読むと、その内容がよく理解できるでしょう。ダンはサンダーの業績を踏まえつつも、さらなるパウロ理解に大きな貢献をした人物だからです。パウロがユダヤ教、特にその律法に厳しい評価を下したのは事実です。パウロはユダヤ人が自力で救いを勝ち取ろうとする姿勢を批判したのだ、というような見方が退けられるのであれば、パウロの律法批判の真意はどこにあるのでしょうか？ ダンは、「律法

という選民思想と結びついた、イスラエル民族とその他の諸民族との境界線を定めるための律法実践だ、というのがダンの見方です。パウロにとって、神の選びの民に属しているか否かは割礼などの律法の行いによって決まるのではなく、キリストとの信頼関係に

の行い」という言葉に着目します。パウロは、人は律法の行いによっては義とされない、と主張します。これについては、律法を完全に守れる人は誰もいないので、行いによって義とされるのは不可能なのだ、と伝統的に理解されてきました。しかし、モーセの律法は人が罪を犯すものだという前提に立っており、罪の赦しのためにレビ記には贖罪制度が定められています。律法は、一つでも誤りを犯せば断罪されるというような、人間には不可能な要求を突き付けているのではないのです。では、律法の行いでは義とされないというパウロの主張の真意はどこにあるのでしょうか？ その理解のカギは、モーセの律法が選びの民であるイスラエルだけに与えられた特権だという事実にあります。律法には、それを守ることで神の民を周囲の異邦人から区別するという役割があります。割礼

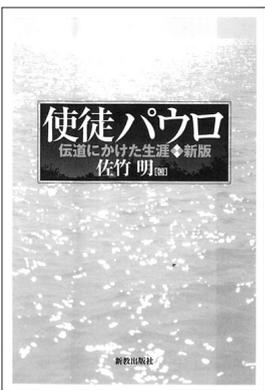
よってのみ決まるものだからです。

このように、ダンはパウロの時代のユダヤ教についての深い洞察に基づいてパウロ神学を詳述しています。本書を読み通すことで、パウロ神学についての新たな展望に目が開かれるでしょう。

『使徒パウロ』

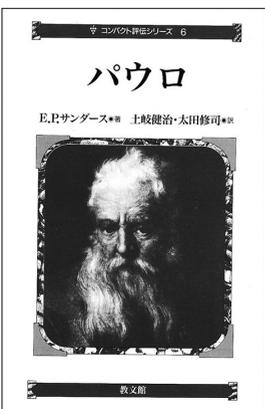
伝道にかけた生涯 新版

佐竹 明：著
新教出版社
2008年刊
四六判280頁
2500円（税別）



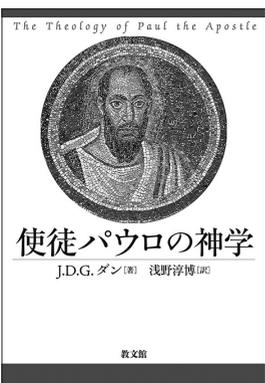
『パウロ』

E.P. サンダーズ：著
土岐健治、太田修司：訳
教文館
2002年刊
B6判289頁
2000円（税別）



『使徒パウロの神学』

J.D.G. ダン：著
浅野淳博：訳
教文館
2019年刊
A5判974頁
6300円（税別）



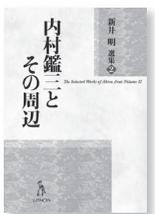
キリスト者の視点とは何か

西永 頌

この度、新井明選集（全三巻）がリトンから出版されたことは、誠に喜ばしいことである。第一巻の題は、『ミルトン研究』で、その第一部は、ミルトン——人と思想、第二部は、ミルトンの世界、第三部は、詩に生きる、としてまとめられている。第二巻は、『内村鑑三とその周辺』と題されている。この巻は、五部で構成されており、おのおの、内村鑑三とその周辺、無教会と平信徒、辺境の恵み、世田谷の森で、先達の跡を、との題により論文やエッセイがまとめられている。

第三巻の題は、『聖書の学び』であり、各地での学び、聖書の学び、里のめぐみ、目白台にて、北越の敬和学園、マシュー・ヘンリー——牧場を追われた牧者、雑葉余録、の七部から構成されている。各巻の末尾にはそれぞれ優れた解説が置かれているので、読者は解説を読むだけでかなり詳しくその内容を知ることが出来る。今までに書かれた著書、論文、寄稿、などが幅広く採録されているが、各々の出典が初出一覧として各巻の末尾に置かれているので各文章がどのような人達を対象にしたのか、著者のどの年代の作かを知ることが出来る。

この三巻からなる選集の特徴は、キリスト者によるミルトン、市井の人々および現代社会の分析と言える。ここに、キリスト者と言った時、キリスト者とは何かが問題になる。アメリカ大統領トランプ氏は、洗礼も受け、教会にも通う。この大統領をキリスト者ではないと結論することはできない。しかし、彼の思考や行動は、聖書が教えるキリスト者のあるべき姿からはかけ離れている。第二巻は、『内村鑑三とその周辺』であるが、そこで取り上げられている内村鑑三は、イエス・キリストの十字架による救いに生涯をかけて生きた人である。内村の視点は、自分の罪、日本の罪、人類の罪であり、その問題をめぐって神と真剣に格闘した。内村の著書の一つに『代表的日本人』がある。そこに書かれている人物はおよそキリストとは関



係ない人々である。にもかかわらず、内村は、神あり、の視点からこれらの人物を描いた。すると、これらの人物が神によって生かされた人間として実に生き生きと現代によみがえってくる。これがキリスト者の視点である。キリスト者とは、内村鑑三のようにイエス・キリストの十字架による罪の赦しを自分の事として生きている人を指す。

第一巻、第一部8章に、ミルトンの大作『楽園の喪失』についての解説がある。この詩の最後でアダムとエバは楽園を追われるが、その描き方が実に暖かい。彼らは、希望をもって荒野に旅立ち、神の摂理の導きに従って困難に立ち向かうという。パウロはロマ書で、アダム・キリスト論を展開しているが、そこで

はアダムからこの世に罪が入ったが、キリストによってこの世に救いをもたらされたと述べられており、アダムは否定されるべき人間である。ミルトンはこのアダムをわれわれ人間が歩む姿として肯定的に描いているのだということを著者の訳と解説により教えられた。

第三巻、『聖書の学び』には、キリスト者として生きるとはどのようなことかが、著者の様々な体験を通して語られている。中国のハルビンで、また、韓国のソウルで講演をされたとき、いずこでも旧日本軍の残虐行為の現場を訪れ、その悪行への謝罪を現地の人々に述べておられる。謝罪こそ過去に軍事的侵略を行った隣国との関係を修復する出発点であり、基本である。嫌



嫌

韓を声高に語る人々とは真逆の考え方であり行動である。また、同第五部には敬和学園大学で学長をされたときの講演やあいさつが集められているが、キリスト者として学長を務められた特別な体験の記録である。特に、学長を務められた六年が大学の紀要にまとめられているが、学長就任のいきさつから大学で新たに着手された試み、地域との連携などキリスト教系大学ならではの大学改革と運営について語られている。このほか日本女子大学創立者成瀬仁蔵のこと、マシュー・ヘンリーの事などについても温い視点からの文章が集められている。総じて選集全体のどこを切ってもすでに述べた意味でのキリスト者の視点が貫かれているといえるのではないだろうか。

〔にしなが たたう 東京大学名誉教授〕
 「本体各巻5000円＋税・リトン」

デニス・アレクサンダー著

『創造か進化か——我々は選択しなければならないのか?』の翻訳を終えて

小山清孝

多くのクリスチャンにとって、科学と聖書の関係は最も悩ましいものの一つ——その最たるものが進化論——ではないでしょうか。進化論は、ダーウィンが一八五九年に「種の起源」を著して以来、様々な議論を巻き起こしてきました。しかし、一世紀半が過ぎた今日でさえも、アメリカにおいては、人口の実に三分の一にも上る人が、進化論を信じていないとされているように、進化論と聖書の間には大きな隔ての壁が立ちはだかつているように思われます。このことは、聖書がその冒頭で、神の言葉によって人間を含む天地万物が創造されたことを宣言し、そのことが、旧約新約を通して、キリスト教の基盤となっているのに対し、進化論が突然変異や、神の創造の極みとしての人間及びその固有性への疑問、適者生存による弱者切り捨て等々、聖書の教義に反し、また、キリスト教倫理とも相容れないように見えるからでしょう。

訳者は理系バックグラウンドを持つキリスト者として、あってはいたよりも、より合理的なプロセスであることが理解できません。

卓越した科学理論が現れると、哲学を含むあらゆる分野において、自己の主義・主張を権威あるものとするために、これらの理論が、自己にとって都合が良いように解釈・改作されることは、しばしば目にするところです。その結果、本来、無色透明である科学理論が、それぞれのイデオロギーに従って、様々な色彩を帯びるものとなります。進化論も例外ではなく、無神論者ばかりではなく、マルクスのような共産主義者、ロックフェラー等の資本主義者、ヒッラーのような全体主義者、優生学者等々、実に多くのキリスト主義を唱える者たちが進化論を利用してきました。実は、聖書との関係は、先にのべたような古い進化論と、これらの手垢に汚れた進化論を前提として、これまで論じられてきたのです。著者は、進化論にフジツボのようにびっしりとこびりついたこれらの誤解を、最新の分子生物学によって丁寧に剥ぎ落とし、一四〇億年前に起こったビッグバンによる宇宙創造のあと、四六億年前に地球が誕生して以来、進化が、生命の驚くべきメカニズムを通して、昼夜を分かたずに働く神の業であることを明らかにしていきます。

これまで、原理主義的なキリスト教徒は、進化論を無神

たかも晴天（福音）にかかる一朵の黒雲のように、進化論にまつわるこれらの問題が、いつも心の片隅にありました。本書の著者であるデニス・アレクサンダー教授は、著名な分子生物学者であると同時に、ケンブリッジ大学の「ファラデー科学と宗教研究所」の名譽所長を兼ねる神学者です。大書ですが、ニュートンやダーウィンを始めとする数々の科学者、また知の巨人を生み出してきたケンブリッジの学問における伝統、知的重みをずっしりと感じさせる本でした。著者は、本書において、現在、驚くべき速さで進んでいるゲノム学や遺伝学など、分子生物学の最先端の知識を駆使して、未だに仮説であるとして反進化論者たちによって攻撃されてきた進化論が、純科学的に確立された優れた理論であることを、専門外の人にも分りやすいように説明していきます。これによって、突然変異や、適者生存など、誤解を生む言葉で語られてきた進化が、実は進化と言うよりは、生物多様化のプロセスであり、従来考えられ

論者による悪魔のようなものと見なし、他方、無神論者は、聖書は科学とは相容れない愚かな宗教だと攻撃してきました。この問題に関して、キリスト教の主要な各教派は、ガリレオ問題で懲りたのか、沈黙を決め込んでいたように思われます。その沈黙の背後には、聖書との関係を意識した、分子生物学を基礎とする進化論がまだ明確でなかったこともあったでしょう。本書は、二〇〇八年に初版が発行されましたが、「神はすべてを時宜にかなってなされる」とのコヘレトの言葉通り、分子生物学の発展によって、ようやく時が満ち、海外においても高く評価されているように、アレクサンダーという優れた科学者兼神学者を得て、この関係がようやく明確なものとして私たちの前に提示されたのです。

「創造か進化か」。今や私たちは、いずれかを選択する必要はないのです。一方が他方を劣るものと見なすとき、そこには不毛な議論はあっても、対話は生じません。しかし、両者を真理として受け入れる時、隔ての壁は取り除かれます。そして、「真理」と「真理」は意味ある対話を始め、互いを高め合って、訳者がそうであったように、雲一つない青空のような、より明確で豊かな福音の世界へと、本書の読者を、確実に、いざない導いてくれるでしょう。

(リーゼント・カレッジ客員研究員・訳者)

今年の受難節、聖書を読み 祈りつつ過ごすために

〈評者〉**吉村和雄**



十字架への道
受難節の黙想と祈り
小泉 健著

祈りの手引きとなる本がいろいろ出されています。祈りは神との対話であり、ちょうど幼い子どもが、周囲の人々の言葉を聞くことによって言葉を覚えるように、わたしたちも他の人々が神と対話をしている言葉を聞くことによって、自分が神に語りかける言葉を獲得するので、特に信仰の初心者のために、また長い信仰生活の中で新鮮な祈りを失ってしまった信徒のためにも、祈りの手引きとなる本が多く出されていることは、幸いなことです。

日本キリスト教団出版局から出された小泉健氏の著書『十字架への道 受難節の黙想と祈り』は、その点でもよい手引きです。題名の通り、これは受難節の日々を祈りつつ過ごすためのものです。灰の水曜日からイースターの前日まで、日曜を除く四〇日間が受難節ですが、この本では、その四〇日間の祈りに、その間の主日の祈りと、

イースターの日の祈りが加えられて、受難節の第一日からイースターの日までを、毎日この本によって祈りつつ過ごせるようになっていきます。さらに、週ごとにテーマが決められていて、例えば第一週は「自己吟味と改心」、第二週は「試練」、第三週は「人々に引き渡された」です。ただ漫然と祈るのではなくて、主の復活を心から喜び祝うために、考えておくべきことがひとつひとつ示され、イースターに向かって心が整えられるように配慮されています。

毎日の祈りは、まず、見開きの左のページにふたつの聖句が聖書日課として挙げられ、朝と晩にそれを与えられた聖句として読めるようになっていきます。なお土曜日は主日の礼拝に備えるためにひとつだけ、そして主日には旧約、使徒書、福音書からそれぞれひとつずつ、合計三つが選ばれています。

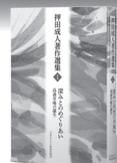
それらの聖書日課に続いて、そのうちのひとつの聖句についての黙想が記されます。短いものですが、著者の深い知識と、確かな教理解に裏打ちされた、優れた黙想です。わたしは読みながら、これはすでに非常に短い説教になっていると、しばしば思われました。それだけメッセージが明確に述べられています。祈りは、神の語りかけを聞いた者が、それに応答するために発する、二番目の言葉です。神の言葉を聞かずに祈る祈りは、あれこれの願い事に終始する祈りになってしまい、同じことの繰り返しになります。その意味でも、聖句のメッセージが明確にされることは、祈りの助けになります。

見開きの右のページに信仰の先達たちの、主イエスのご受難を覚えて祈られた祈りが紹介されています。自分が普

段の祈りの中では用いないような言葉や表現にいくつも出会います。もちろんそれにとらわれずに、黙想によって与えられた祈りを祈ってよいのですが、しかし、先達の祈りを自分の祈りとして祈ることも、意味が深いと思います。受難節という時期を教会として守っているところでは、その時期を意味深く過ごすために用いる手引きとして、この書は最善だと思います。そうでない教会でも、信徒がそれぞれ、イースターに向かって自分の信仰の歩みを整えるために、この手引きを用いて受難節を過ごすことを奨めます。この書によって身についた習慣は、それ以外の時期の祈りの生活の中でも生かされるでしょう。

(よしむら・かずお 単立・キリスト品川教会牧師)
(四六判・二二〇頁・本体二二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

現代文明への警鐘を鳴らした
押田神父の著作選集



押田成人著作選集 全3巻 (第一回配本) 深みとのめぐりあい 高森草庵の誕生

宮本久雄 / 石井智恵美 編
九死に一生を得て、ドミニコ修道会に入会するまで、祈りと農業の共同体「高森草庵」における生活をたどる。
A5判 上製・252頁・2970円

「信徒の友」人気連載を単行本化



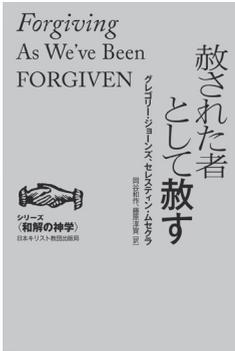
精神障害とキリスト者 そこに働く神の愛

石丸昌彦 監修
精神障害の当事者が抱える課題を、教会はどのように共に担ってきたか。当事者や支援者による証しと、クリスチャン精神科医の応答。
四六判 並製・216頁・2420円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)
<http://bp-ucci.jp>

赦しは神からの贈り物

〈評者〉金 迅野



シリーズ〈和解の神学〉
 赦された者として赦す
 G・ジョーンズ、C・ムセクラ著
 岡谷和作、藤原淳賀訳

本書は、米デューク大学神学部の「和解センター」が二〇〇八年に出版を開始した「和解の神学シリーズ」の一冊である。同センターは著者の一人であるセレスティン・ムセクラ氏が関わってきたアフリカの大湖沼地域における和解と平和構築の働きを支えてきた。著者は、凄まじい暴力の経験から赦しや和解に向かう働きのなかで声を紡いだムセクラ氏と、「心の友」として誠実な応答を試みるもうひとりの神学者、グレゴリー・ジョーンズ氏。同センターは、二〇一四年から日本、韓国、香港、中国本土、米国のキリスト者が集う「北東アジアにおける和解のためのキリスト者フォーラム」も主催してきた。本書は、このフォーラムの企画運営に関わった日本の参加者の「思い」の結果として生まれたものだ。

ムセクラ氏とジョーンズ氏の言葉が対位的に編まれて

てしまう「安っぽい赦し」か、「赦すか赦さないか」という問いに絡め取られて「高価な絶望」を生きる自分の姿があまり出されるからだ。

著者は、「赦し」、あるいは暴力の記憶の癒やしは、「キリストの体の交わりの中」で出会う友によって始まると言う。そして、そのような友こそが神による「聖なる贈り物」なのだ。人間の想いとしては理不尽だけれど、「赦し」に向かう最初のアクションは、すべからず「赦す」側から始まるのだということが言外に語られている。そして最大の「心の友」はイエス・キリストであることも。「赦し」のなかで（十字架の）傷はなくなるのではない。起きてしまったことがないことにされるのではない。しかし、以前のようには思い起こさずに済むということが、「心の友」



〔市川裕先生献呈論文集〕

一神教世界の中のユダヤ教

勝又悦子 柴田大輔 編
 志田雅宏 高井啓介

●A5判上製 本体5,000円＋税

古代メソポタミアの一神教 柴田大輔／メソポタミアのマクルー儀礼における火と水の力 細田あや子／「アバル・ナハラ州の総督」とアル・ヤーブドゥ共同体 高井啓介／魅力ある女は、名誉を掴む 自分自身に報いる者だ、友愛に富む男は 加藤久美子／第二神殿時代におけるガリラヤのリーダーたち 上村静／「民」と「自由」と「偶像崇拜」 勝又悦子／ハイム・イブン・ムサー『盾と槍』 志田雅宏／近代的ユダヤ人ステレオタイプの形成 李美奈／ほか7篇を収録。 ISBN978-4-86376-078-3

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
 ☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

によって起きるのだ。そして、傷ついた自分も、誰かを「赦す」前に、すでに「赦された」存在であったことを深く心にとどめる奇跡が、わたしの心のなかで起きるのだ。そのような「心の友」との出会いを備えてくださる神さまの業を、今日の教会は十分に顕しているだろうか。国家間の不毛な葛藤が伝えられる今日、著者が示唆するように、個的な「赦し」の業が、「社会政治的な赦し」「集団としての赦し」へと進んでいくことを願う。あらゆる「運動」が個の微細な心の揺らぎによって始まるように、「社会政治的な赦し」の初発のところには、「贈り物」としての「赦し」をわたしが生きることが横たわっているはずだから。

（きむ・しんやリマイノリティ宣教センター運営委員）
 （四六判・一六八頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

信仰者として日々を生きる尊さ

〈評者〉 出村和彦



アウグスティヌスの母 モニカ
平凡に生きた聖人
G・クラーク著
松崎一平、佐藤真基子、松村康平訳

のだろうか。

「モニカ」と言えば、聖人サンタ・モニカとして西方キリスト教では親しまれている。「このような涙の息子は減ることはできない」（『告白録』三・二二・二二）と祈る献身的な母として人々に強く印象付けられている。彷徨するアウグスティヌスの生涯に寄り添い、ついにはミラノでの彼のキリスト教への回心と受洗を喜びを持って受け入れ、亡くなる直前、彼と共に、神に観想的に触れる神秘体験を得て平安のうちの帰天した篤信のキリスト者であり、司教アンブロシウスの教えを体現して正統信仰を守る「強い母なる教会」の象徴の聖女として受け止められている。

クラークはそのようなモニカ像が定着する西欧の歴史にも目配りしつつ、貴族でも修道女でも殉教者でもない「平凡な (ordinary)」市民の女性としてのモニカのありように光を当てている。モニカの真の偉大さはどこにあった

なつては「陸と海を越えて」内陸のタガステから港町カルタゴへ、そして、北イタリアのミラノまで息子の後を追ってやってきて、哲学的談義にも加わる「進取の気性に富んだ」母である。「平凡」どころか、同時代では希有のなかの女性、そのような彼女であればこそ、松崎一平が解説で記すように、「私たちの隣人のように生き生きと生きる。そして、時代の違い、地域や文化の違いを超える、妻の、母の、つまりは人間の普遍というべきものを体現する」のである。「平凡に生きた聖人」の生き方から学ぶ意義もここにありと見えよう。

G・クラーク女史は英国プリストル大学名誉教授。古代末期史学の第一人者で、研究者としてのプロフィールは佐藤真基子による解説に詳しい。『告白録』第九巻でアウグ

のだろうか。

本書は、第一章モニカへのイントロダクション、第二章モニカの家、第三章モニカの奉仕、第四章モニカの教育、第五章モニカの宗教、第六章聖モニカという構成をとって、彼女が生きた古代末期四世紀後半ローマ帝国の北アフリカの生活環境を生き生きと描いている。古代末期の文化背景を知るのに必要な古典の基礎知識も丁寧に提供しつつ、アウグスティヌスの『告白録』やカッシキアコム対話編、その他の同時代の史料を駆使して、様々な女性たちのありようの中でのモニカの特質を的確かつ興味深く立体的に浮かび上がらせた待望の書である。

本書を通じて、キリスト教徒の家に生まれたモニカの少女時代のエピソードや、嫁いでは夫に「奉仕する妻」としての彼女の振る舞いの個性を知ることができる。寡婦と

ステイヌスが感動的に描くモニカとの観想体験や死別の場所はローマ近郊オステティアである。松村康平によるその古代遺跡や市内の聖アウグステイノ教会訪問記が付しているのは、モニカを身近に感じるのに役に立つであろう。巻末の「参考文献と資料」は、P・ブラウン『アウグステイヌス伝』（教文館、二〇〇四年）以降の最新情報を反映している。この画期的な研究（原著二〇一五年）の翻訳が与えられることは大きな喜びである。

（でむら・かずひこ 岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科教授）
（A5判・三二四頁・本体三四〇〇円＋税・教文館）

原野百合著 ベツレヘムの星

四六判美装・一八八頁
本体 三〇〇円
ISBN978-4-909871-11-4



♪知らずや今宵、暗き空に♪
あゝの奇烈な戦争の終わりは、さらなる新しい戦いの始まりでもあった。戦争孤児となった和夫少年が一枚のカード「ベツレヘムの星」に導かれるようにたどった数奇な歩みをみずみずしい筆致で書き下ろした児童文学の意欲作。

大頭眞一 アブラハムと神さまと星空と

忽ち再版出来！



「聖書の物語」を手がかりに聖書の学びと説教を続けている大頭牧師の〈説教篇〉を、実際の展開例として聴かれたままを、読む形で書下されたシリーズ。聖書の豊かさや真髄を感じ、神の愛を深く味わえる。【全8冊】
新書判・二二四頁・一〇〇円【第一回配本】
ヨベル新書056 ISBN978-4-909871-07-7

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 星 (税別)

敬虔主義の無理解と誤解を解く

〈評者〉 立山忠浩



エルムート・ドロテア
フォン・ツィンツェンドルフ伯爵夫人
ヘルンフト同胞教団の母
エリカ・ガイガー著
梅田與四男訳

「敬虔主義」という言葉から抱く印象は何か。訳者の梅田與四男氏は先に『敬虔主義』（デイル・ブラウン著、キリスト新聞社、二〇〇六年）の翻訳を上梓しているが、その推薦のことがばが的を射ているように思える。

「日本のプロテスタント・キリスト教会は、意識すると否にかかわらず、また、多かれ少なかれ敬虔主義の影響を受けていると言つてよからう。…ところが日本のプロテスタント・キリスト教会には、なにかしら敬虔主義を顧みない、あるいは疎んじる風潮もまたあるのである。それは、自戒を込めて言えば、歴史の年輪を知らないキリスト教の底の浅さから来るものかもしれない」。(徳善義和・日本ルーテル神学校名誉教授)

梅田氏の長年の問題意識は、敬虔主義に向けられている誤解や批判を解くことにあると言つて良からう。その誤解を解くためだけに、現在の日本のキリスト教界の課題に警鐘を与える目的が本書に加わったことが窺える。

本書からまず敬虔主義の基本的な知識を得ることになる。そして敬虔主義運動とヘルンフト同胞教団の創設の歴史が、ツィンツェンドルフ伯爵によって築き上げられたという知識は十分でないことに気づく。いや、教団の財政問題をエルトムートが一手に引き受けざるを得なかった苦悩とその貢献なしには敬虔主義運動は継続しえず、ヘルンフト同胞教団の実質の創設者とも言えることを知ることになる。

それだけではない。ここでは重要な取り決めに「くじ」が重要な意味を持つ。キリスト者には馴染みの「日々の聖

や批判の原因に、敬虔主義についての正しい知識を有していないことが挙げられる。ある著名な神学者の敬虔主義に対する（多くが否定的な）見解をそのまま鵜呑みにしていることは、筆者自身にも言えることであつた。

本書の紹介の前に少々多弁を費やしたが、『エルトムート・ドロテア・フォン・ツィンツェンドルフ伯爵夫人』という題名は、多くの者が耳にしたことのない名前だと思われたからである。伯爵夫人とは、敬虔主義の指導者であり、ヘルンフト同胞教団の創設者となつたツィンツェンドルフ伯爵の妻である。訳者はすでにツィンツェンドルフ伯爵の伝記の下訳も終わっていると聞いたが、なぜ妻のエルトムートの方を先に上梓したのだろうか。アメリカ留学を経て日本のキリスト教界における性差別に気づき、その是正への取り組みの一助としたいとの意図を梅田氏は述べ

句「(ローズンゲン) はここから生み出されたことも知る。また伯爵夫妻の関係についても言及され、伯爵の女性問題に苦悩するエルトムートも隠さず描かれている。ある者は一年前に刊行された「カール・バルトの愛と神学」(DVD)を想起するに違いない。

現代においては性差別は夫婦に象徴される男女の問題を越えている。今日の問題に、一八世紀のツィンツェンドルフ伯爵夫妻の働きとその夫婦関係がどのような意味を持つのか、それは読者自身が課題として行くことにならう。

訳文は実に丁寧で、まことに読み易い文章である。前書『敬虔主義』と共に推奨すべき良書であるとの感想を得た。

(たてやま・ただひろ) 日本福音ルーテル都南教会牧師
(四六判・二三〇頁・本体二〇〇〇円＋税・リットン)



エルトムート・ドロテア フォン・ツィンツェンドルフ伯爵夫人

エリカガイガー 著

梅田與四男 訳

●四六判並製 二三〇頁 本体二〇〇〇円＋税

本書はモラヴィア人信仰難民たちとの関わりにより敬虔主義の指導者となつたツィンツェンドルフ伯爵の妻となり、彼女なくしてヘルンフト同胞教団は存続しなかつたといわしめた伯爵夫人エルトムート・ドロテアの伝記である。一八世紀前半における同時代の女性指導者についてのこの種の伝記は類書が極めて少ない。

ISBN978-4-86376-077-6

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

「牧会」の中から生まれた 貴重な手引き書

〈評者〉**坂野慧吉**



3分間のグッドニュース [律法]
聖書通読のためのやさしい手引き書
鎌野善三著

以前、鎌野善三先生から、「3分間のグッドニュース」をプレゼントしていただいて、興味深く読ませていただいたことがある。今回新改訂聖書二〇一七版が出版されるに当たり、「歴史」「詩歌」の部分に続いて「律法」が改訂出版された。

クリスチャンにとって、「旧・新約聖書」を通読することは、とても大事なことである。私も五〇年ほど前、クリスチャンになったばかりの時に、通読した記憶がある。しかし、それはただ「通読した」という記憶があるだけで、ほとんど何も覚えていないし、恵みを味わった記憶もない。その後、「注解書」を見ながら、「通読した」こともあり、また、何も参考にしないうで「通読した」こともある。また今も出版されている「通読のための助けになる」テキストに従って通読したこともある。

などを「読むための土台」が据えられる。

第二に、通読のために、「聖書の箇所」「一章」ずつが分けられ、何よりも、最初に「聖書本文」を読むように、すすめられている。これは、とても大切なことである。聖書通読の目的は、何よりも牧師や聖書学者の「解釈」を知り、それを理解することではなく、「聖書そのもの」を読み、味わい、自分のものとするところにあるからである。

第三に、聖書箇所を読んだ後に、1ページにコンパクトにまとめられた解説を読むことが奨められている。聖書を読み、聖書を味わい、その後聖書の解説を読むということである。聖書を味わう時、私はその箇所を何回も読み、その箇所を思い巡らし、聖霊の光によって、深い洞察が与えられ、慰めと希望が与えられる。時に深く罪を示される。

このような「通読」が無駄であったとは思わない。聖書を読んですべてを「理解」し、すべてを「記憶し」、すべてを「実行する」のはなかなか難しいと思う。このような経験をしているクリスチャンは少なくないと思う。「聖書通読」のためには「注解書」ではなく、「神学書」でもなく、「説教集」でもない。「聖書通読の助け」が必要とされている。このような必要に鎌野善三先生の「3分間のグッドニュース」は大きな助けとなる。今回の改訂版を読ませていただいて、さらに読みやすくなっていると実感できる。

第一に、「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」のそれぞれのはじめに。コンパクトな「解説」がなされているのがあるが、これを読むことによって、それぞれの書物の概要を知り、記された目的やテーマを知ることができ、それによって「創世記」「出エジプト記」その後に、解説を読むと、また違った観点から光が与えられる。この「グッドニュース」は分かりやすい。そして決して自分の解釈を押し付けない。

第四に、著者がその箇所から神によって示されたことをさりげなく、短く記している。これも大いに参考になる。最後に、祈りが記されている。聖書を読んで理解しただけではみことばは自分のものにならない。「みことばへの応答」としての「祈り」が大事である。著者は、短くご自分の「祈り」を記されている。これも味わい深い。実際に鎌野先生が祈ったのりであろう。

先生の「牧会」の中から生まれた貴重な書物であり、さらに「聖書通読」が進められるために、本書が用いられることを願っている。(さかのけいきち 浦和福音自由教会牧師)

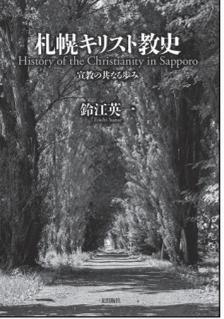
(A5判・二〇八頁・本体一六〇〇円＋税・ヨベル)



札幌キリスト教史

宣教の共なる歩み

鈴江英一
Eiichi Suzue



人びとの思想形成と生活に与えた影響の大きさ

札幌における宣教の始めである1875年から戦後2004年までの〈通史〉。宣教のための必読の書。

A5判
定価 [本体 5,400 + 税] 円
ISBN978-4-86325-120-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

知られざる明治期 クリスチャン実業家の生涯

〈評者〉大西晴樹



長谷川誠三
津軽の先駆者の信仰と事績
岡部一興著

本書は、明治期に青森県弘前に在住した長谷川誠三（一八五七—一九二四）というクリスチャン実業家を取り上げたキリスト教史研究であると同時に、禁欲的なプロテスタンティズムの倫理と「資本主義の精神」の間には親和性があると、マックス・ヴェーバーが提起した「資本主義の倫理テーゼ」に対する例証の書でもある。著者は、横浜プロテスタント史研究会の主宰者であり、日本の改革長老教会史やプロテスタント学校史を長年手掛けてきたが、長谷川誠三について、大学院生時代に高谷道男氏、工藤英一氏の薫陶を受けて書いた論文数本を近年数次の再調査を経て、一つの書物にまとめた。

明治期における地方社会の近代化の推進力としてキリスト教の貢献を認める研究は、隅谷三喜男氏をもって嚆矢とする。青森県では、横浜バンド出身の本多庸一により東奥

は、東奥義塾宣教師ジョン・イングが西洋料理をふるまっていた一八七四年といわれており、「ふじ」の名称は藤崎に由来する。誠三が義兄の佐藤藤三郎と一緒に経営した株式会社組織敬業社は順調に成長した。佐藤藤三郎と一緒に藤崎教会の役員を担い、藤崎教会は当時地方教会としては珍しい自給教会へと成長した。この自給教会としての自負が、誠三をして一九〇六年、監督制教会としてのメソジスト派から各個教会主義のプリマス・ブレズレン派へと離脱させた理由ではないかと著者は述べている。

実業家としては他に、一八九七年の藤崎銀行（現青森銀行の前身の一つ）の設立と経営、雲雀牧場の経営、小坂鉱山の経営、日本石油への出資がある。英米の国際石油資本に抗して、鉱山石油資源の国産化の意義を説いていた誠三にとって、石油資本への出資は重要であり、誠三を青森県内屈指の大納税者に押し上げた。また社会貢献として、キ

義塾にキリスト教が伝播し、一八七五年日本基督公会弘前教会を生み出し、結集した旧武士層や在地の地主層は共同会を設立し、自由民権運動をリードしていった。弘前近郊の藤崎村の酒造業者長谷川誠三は自由民権運動の若き担い手であったが、一八八五年にリング産業に着手、翌年の県会議員選挙の落選を最後に政治運動と袂を分かた。誠三は妻と一緒に、一八八七年にメソジスト宣教師であるC・W・グリーンから受洗、藤崎教会に連なり、教会学校校長としての歩みを開始する。この転換点は、クリスチャン実業家としての歩みを理解するうえで大きな意味をもつ。酒造業から味噌醤油製造業へ転向した誠三は、受洗するや禁酒を断行し「禁酒貯蓄会」を立ち上げ、実業へ邁進する。青森リングは特産品としてあまりにも有名であるが、導入にクリスチャンが関わっている。初めてリングが紹介されたの

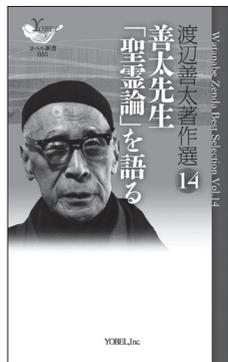
リスト教学校である弘前女学校（現弘前学院）の校主（理事長）、社会事業家本郷定次郎が興した孤児院「暁星園」への援助、一九〇二年の東北地区の凶作の際の小作料の軽減への訴えがある。一九一三年の大凶作の際には、貨車五〇両・時価二〇万円（青森県による救済金の五分の一）の外米を、窮民に配布した。弘前女学校の設立交渉の際に、誠三が青森県庁学務課に礼拝の時間を認めるように主張し、始業時間（正課）前の三〇分が礼拝として許されることによって、文部省訓令第十二号による募集の困難を弘前女学校は免れ、むしろ生徒が増えた。

著者の尽力によって、明治期における一人のクリスチャン実業家の姿が鮮明になった。信仰日誌などがあれば、ヴェーバー・テーゼのより具体的な例証になったと思われる。

（おおいし・はるき||東北学院大学学長）
（A5判・三四頁・本体三八〇〇+税・教文館）

聖書学者・善太先生の 息遣いが聞こえてくる！

〈評者〉 辻 哲子



渡辺善太著作選14
善太先生「聖霊論」を語る
渡辺善太著

「聖霊に導かれ神の召しに応える」という主題を全国教会婦人会連合は今期の主題に掲げた。「聖霊」を私たちはどのように信じ理解し導かれているか。図らずも本書の出版を喜びたい。特に聖霊を神学として扱う書物が日本のみならず欧米の神学界も少ないからだ。本書の巻頭に「聖霊の吹いた『跡』をたどる——ヨハネ福音書によせて」大貫隆氏の論文が掲載されている。その結びに、「ブルトマンとケーゼマンの両者に共通するさらに大きな欠は、「体験」としての聖霊論がないことである。（福音書の）著者と教会共同体に「聖霊が吹いた『跡』」への目配りは皆無である。——問題は本書の著者（渡辺善太）が畢生の課題とした正典論と密接に関連してくる——「神学なき体験は盲目であり 体験なき神学は空虚である」という言葉には、深く頷けるものがある」。

①キリストの共働体たる聖霊。共観福音書におけるイエスの生涯は、誕生、荒野の誘惑までは聖霊の言及が多いがその後「非常な権威者」として述べられていて、聖霊の言及がなされていない。しかし一回だけ「その時イエス聖霊によりて喜びていひたまふ」（ルカ12:11）。ここに聖霊が一如・一体的にイエスに共存し共働したことを証している。

②教会の創設者たる聖霊。ペンテコステ以前は聖霊は特殊な人々のみに働いたが、信徒も「皆、聖霊に満たされ 臆することなく神の言葉を語り」教会の拡大が引き起こされた。③キリストの証示者たる聖霊。旧約のキリスト証言は聖霊によりてのみ解明される。④神意の解示者たる聖霊。キリストの昇天より再臨まで、教会とその肢である信仰者の救拯に関する一切の知識は聖霊の証示による。聖霊は特

善太先生が語る「聖霊論」は、聖書正典に即して展開している。緒論はキリスト教理解において決定するものは聖霊である。「聖霊に感ぜざれば誰も（イエスは主なり）」といふ能わず」（一コリント12:3）、この信仰告白がキリスト教の焦点でありもう一方、聖霊は「風の吹く如く」（ヨハネ3:3）ため、その吹いた結果した「跡」からこれを推定するといふ二方面からの論及が必要であること。本論は、第一聖霊により聖書は記述され理解される。第三キリストに対する正しい認識は聖霊による——第六聖霊は地上教会の創設者である。第七教会の有するあらゆる「賜物」は聖霊による。第八聖霊は「われらの弱きを助け」る助け手として働く。第九聖霊は「霊の初の実」をもつ我らの肉体にまで再臨の準備として働きたもう。第十聖霊は宣教の熱情の証言者として働きたもう。これらの内容を各章で解説されている。

に教えずして教える三点(1)罪(2)義(3)審判について聖霊は神意の啓示者として伝える。⑤真理の解明者たる聖霊は真理なるキリストを「知ること」と「信じること」と行うこと」の「全人的救拯」をなす。⑥救拯の成就者たる聖霊は①召し②義とし③聖とする。⑦嗣業の保証者たる聖霊はキリスト者に終末時の嗣業の確かさを知らせ、キリストの再臨、新天新地を仰がせる。

著者自らが正典としての聖書に虚心坦懐に向き合い、そこから抱く「恐怖と戦慄感」と「感謝と賛美感」の相反する体験によりこの「聖霊論」を語っている。改めて「聖霊に導かれる」とは一体何なのか。本書をお勧めしたい。聖書学者・善太先生の息遣いが聞こえてくる本書である。

（つじ・てつこ）元日本基督教団静岡草深教会牧師
（新書判・二〇八頁・本体一八〇〇円＋税・ヨベル）

ドイツを代表する新約学者の
集大成的著作、ついに邦訳完結！



新約聖書神学II 下

フェル・ディナント・ハーン 大貫隆・田中健三 訳

神学の諸課題ごとに新約各文書の証言を分析。「キリスト教正典としての旧約聖書」「啓示」「救済論」を扱った上巻に続き、下巻では「教会論」「終末論」を扱う。
A5判上製・488頁・13200円

一シリーズ好評発売中 各13,200円—
新約聖書神学I上 大貫隆/大友陽子 訳
新約聖書神学I下 須藤伊知郎 訳
新約聖書神学II上 大貫隆/田中健三 訳

悩み、苦しむ現代人の心を癒す言葉に満ちた、ナウエンの名著を復刊！

ナウエン・セレクション
今日のパン、明日の糧
暮らしにのちを吹きこむ366のことば
ヘンリ・ナウエン
嶋本 操 監修 河田正雄 訳
酒井陽介 解説
傷つき、揺れ動き、迷い、神を求め続けたヘンリ・ナウエン。その歩みの到達点とも言える、366の短い黙想を取録。
四六判 並製・424頁・2,640円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》
<http://bp-ucci.jp>

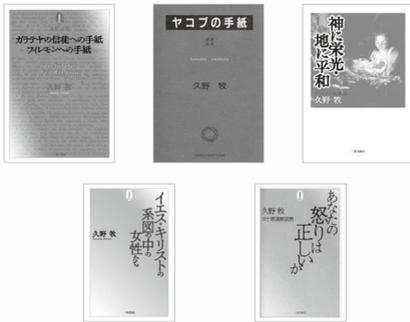
一麦出版社

http://www.ichibaku.co.jp/
携帯サイト mobile.ichibaku.co.jp/



Ichibaku Shuppansha Publishing Co., Ltd.

久野牧 説教集



講解説教 ガラテヤの信徒への手紙・フィレモンへの手紙
四六判 定価(本体3,800+税)円

講解説教 ヤコブの手紙
四六判 定価(本体3,200+税)円

神に栄光・地に平和 クリスマス説教
四六判 定価(本体3,200+税)円

イエス・キリストの系図の中の女性たち アドベント・クリスマスの謎
四六判変型 定価(本体1,400+税)円

あなたの怒りは正しいか ヨナ書講解説教
四六判変型 定価(本体1,600+税)円

及川信 説教集



神の国 説教
四六判 定価(本体2,400+税)円

主の祈り 説教と黙想
四六判 定価(本体1,800+税)円

盲人の癒し・死人の復活 ヨハネによる福音書 説教と黙想
四六判 定価(本体1,900+税)円

林勵三 説教集



マタイによる福音書 説教 1-7章 / 8-12章 / 13-16章
四六判 定価各(本体1,700~1,800+税)円

ローマ書 小説教 I 1:1-5:21 / II 6:1-10:21 / III 11:1-16:27
四六判 定価各(本体1,600+税)円

三好明 説教集



講解説教 使徒言行録 I 11:19-31 / II 9:32-18:23 / III 18:24-28:31
四六判 定価各(本体3,400~3,800+税)円

▲ 牧野信成

巡礼歌 講解説教 詩編 120-134編(含試詠)
四六判 定価(本体2,800+税)円

旧約のアドヴェント 講解説教 土師記・ルツ記
四六判 定価(本体2,800+税)円

▲ 中島英行

惜しむ神 ヨナ書講解説教
四六判 定価(本体1,600+税)円



本のお求めは全国のキリスト教書店、一般書店、Amazon、小社ホームページへ
ヨベルから 2019年1月~12月までに出版した本 (新刊21点、再版5点、非売品8点:計33点)

長谷川正昭 **笑い癒しの神学** 四六判・四六四頁・二八〇〇円 907486344(一月)

潮 義男 **創世記講解上** 一章~22章 新書判・三〇四頁・二二〇〇円 907486322(一月)

上沼昌雄 **怒って神に** ヨナの怒りに触れて 新書判・一五六頁・一〇〇〇円 907486344(一月)

鎌野善三 **3分間のグッドニュース** 「歴史」 〈シリーズ全5冊〉
—聖書通読のためのやさしい手引き書 A5判・二七二頁・一六〇〇円 907486377(二月)

藤原孝行 **よくわかる聖書にもとづく「クリスチャン生活」**
新書判・二二八頁・一〇〇〇円 907486391(三月)

水草修治 **失われた歴史から** —創造からバベルまで
新書判・三〇〇頁・一三〇〇円 907486314(四月)

宮村武夫著作3 **真実の神、公同礼拝** 四六判・三三六頁・一八〇〇円 96555456(四月)

鎌野善三 **3分間のグッドニュース** 「詩歌」 〈シリーズ全5冊〉
—聖書通読のためのやさしい手引き書 A5判・二六四頁・一六〇〇円 907486377(五月)

工藤信夫 **ツール二エを読む!** —キリスト教的人間理解の新たな視点を求めて
四六判・四〇〇頁・一五〇〇円 907486377(六月)

福田節子 **50年以上前からあった「心のノート」** —教師と子どもたちの日々の記録
《読者新聞・毎日新聞・千歳新聞・盛岡新聞・秋田新聞・新報東北・東洋新聞・新潟新聞・山形新聞・福島新聞・宮城新聞・岩手新聞》
四六判・三七六頁・一八〇〇円 907486338(六月)

メアリー・C・ニール/三ツ本武仁訳 **天国からの帰還** —ある医師の死、天国、天使、そして生還をめぐる驚くべき証言 四六判・三五六頁・一六〇〇円 907486377(七月)

鎌野善三 **3分間のグッドニュース** 「福音」 〈シリーズ全5冊〉
—聖書通読のためのやさしい手引き書 A5判・二〇四頁・一六〇〇円 907486377(八月)

早坂文彦 **ACTによる牧会カウンセリング入門** 「理論編」
四六判・三五〇頁・二五〇〇円 907486308(九月)

渡辺善太著作④ **善太先生「聖霊論」を語る** *大貫隆「聖霊の吹いた一跡」をたどる
—ヨハネ福音書によせて 書下し論考所収 新書判・三〇四頁・一八〇〇円 907486399(九月)

菅原吉英 **エマのクリスマス** —お話を聞かせてツタささ
四六判・三三頁・一〇〇〇円 907486334(十月)

塩屋 弘 **ヨブ記に聞く!** 四六判・二八八頁・二二〇〇円 907486346(十一月)

鎌野善三 **3分間のグッドニュース** 「律法」 〈シリーズ全5冊〉
—聖書通読のためのやさしい手引き書 A5判・三〇四頁・一六〇〇円 907486377(十二月)

ジュセッペ 三木一/佐藤弥生訳 **アベルのところで命を祝う** —創世記4章
《第二弾》 師父たちの食卓2 A5判・一九九頁・一五〇〇円 907486308(十二月)

大頭真一 **アブラハムと神さまと星空と** —創世記・上 〈2020年1月再版〉
焚き火を囲んで聴く神の物語 「説教篇」 新書判・三四四頁・一〇〇〇円 907486377(二月)

恐れるな、小さき群れよ —基督教共助会の先達たちと森明
四六判・二八八頁・一三〇〇円 907486302(二月)

大井満責任編集 **2019ケズイック・コンベンション説教集**
聖なるたがはずまい Christkiness 四六判・一七六頁・一三〇〇円 907486302(二月)

*再版—
レイン/トリップ/山口美保子訳 **人はどのようにして変わるのか**
〔再版〕 A5判変形・四〇八頁・一六〇〇円 907486345(二月)

大頭真一 **聖書は物語る** 一年12回で聖書を読む本 「六版」 A5判・一〇〇〇円 96555477(七月)

大頭真一 **聖書はさらに物語る** 一年12回で聖書を読む本 「四版」 A5判・一〇〇〇円 907486358(七月)

上沼昌雄 **怒って神に** —ヨナの怒りに触れて 〔再版〕 907486399(八月)

黒川知文 **ユダヤ人の歴史と思想** 〔再版〕 四六判・三三六頁・一八〇〇円 907486375(九月)

*非売品—
渡辺宗子 **主はわが牧者** 主の御恩籠の回想録 野畑家ファミリー 四六判・四一六頁(三月)

宮岡愛美 **医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です** 四六判・一六頁(三月)

東京バプテスト教会 **スポーツバイブル「ラグビー」版** A6判・二〇〇頁

武蔵豊岡教会 **130年史** A4判・二四八頁(九月)

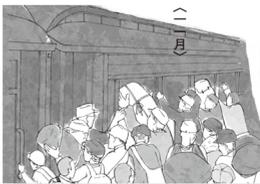
宮崎直道 **主よ我を導き給え** 四六判・四〇頁(九月)

松本志郎 **永遠の命** 四六判・三三頁(十月)

更生教会九十周年記念誌 **向こう岸へ渡ろう** A5判・三五二頁(二月)

宮崎直道 **主よ我を導き給え2** 四六判・八〇頁(二月)

2020年新刊 **戦争の終焉と孤児がどう生き、たれと出会ったか?**
原野百合 **ベツレヘムの星** 四六判・二八八頁・一三〇〇円(二月)



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@afoc.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fcqwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延館282 榎ヶ丘スチオンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.bigjobe.jp	sksch@mva.bigjobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshita.cococan.jp/	nagoya-seibunshita@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.bigjobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www.w6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環通調子線777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■新教出版社

誰にも言わないと言ったけれど(仮題)
—— 黒人神学と私

ジェイムズ・H・コーン著／榎本 空訳

黒人解放の神学の泰斗、ジェームズ・H・コーン(1936—2018)。過酷な人種差別の経験、黒人神学者としての使命と苦難、キング牧師やマルコムX、ジェームズ・ボールドウィンら先人への思いまで、その人生のすべてを明かす最期の書。

四六判・280頁・本体予価3000円

詩篇の思想と信仰V

—— 第101編から第125篇まで

月本昭男著

古代オリエント学に通暁する著者ならではの広い視野から、各篇に詳細な語釈を施し、思想・信仰の特質にまで鋭く踏み込む。詩篇の学びに必携。この巻でもって全6巻の壮大な注解がいよいよ完結。

四六判・419頁・本体予価3600円

INFORMATION

近刊情報

■日本キリスト教団出版局

神さまが見守る子どもたちの成長

—— 誕生・こころ・病・いのち

石丸昌彦著

四六判・160頁・本体1600円

説教黙想アレティア特別増刊号

伝道する説教をしよう

日本キリスト教団出版局編

イエス・キリストを紹介したい!

B5判・128頁・本体2000円

■教文館

あなたはわたしの愛する子

—— 心にひびく聖書の言葉

片柳弘史著

インターネットでは10万超の共感をもつ片柳弘史神父の教文館第4弾。4つのテーマ「信仰」「喜び」「使命」「人生」に纏められたバイブル・エッセイ集。

B6変型判・1800頁・本体予価10000円

福音と世界

2020年3月号

特集 リプロダクティブ・ヘルス&ライツ

寄稿者 大橋由香子、芦野由利子、塚原久美、瀨山紀子、高橋さきの、大嶋果織

映画評 『グリーン・ライ 』エコの嘘』(編集部) / 好評連載 くまさんのシネマめぐり

(好井裕明) パビロンの路上で Conjectures of a Son of a Preacher Man (マニエル・ヤン)、神の酒 (石井光太) 教父学入門 (土井健司)、福音書記者たちの饗宴 (松本あずさ) ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

「生きる意味のない命」。この言

葉、読者の多くの方がお察しのこ

とだと思うが、相模原障害者殺傷

事件の植松被告の思想の一つだ。

彼は、重度の障害者は「生きる意

味のない命」であり、安楽死させ

たほうがよいと、犯行後も主張し続けているという。ネット

ト上では犯人の思想に同調する意見も溢れており、筆者も

当時、「やったことはどうかと思うが、正論だ」などの言

葉を見て、心がざわついたことを覚えている。

そのざわつきを突いた言葉があった。「内なるウエマツさ

ん」。事件が起こった年、とあるキリスト教雑誌にあった、

元障害者施設職員の言葉だ。犯人と同じ思想が自分の内に

も確かにある。その言葉は胸をえぐった。無論その声に同

予告

本のひろば

2020年4月号

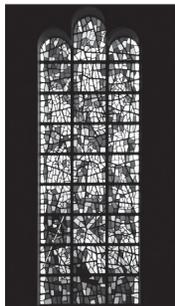
本・批評と紹介

(特集) キリスト教における「苦難」の意味を知るならこの三冊!、(書評) 松本敏之著『神の壮大な計画』、大嶋重徳著『クリスマスの約束』、工藤信夫著『トウルニエを読む』他

調する気などないが、隠しておきたい本心のようなものを突いてきた言葉は、今も自分を揺さぶっている。

この事件、単なる異常な感覚を持った人が起こした事件とは思えない。もし自分が神を知らず、経済優先、生産性で人を評価し、競争社会を勝ち抜くことが正義という、戦後七〇年を通して培われた感覚をもって、巷に溢れるのちを損なう悪の言葉に触れ続けていたなら……。悪の言葉が形を持って現れたこの事件は、世界の悪と、内なる罪の存在を問うているように思う。

障碍を持った方だけではない。いのちの優劣を計る秤に惑わされ、自らのいのちにすら価値を見出せない人々に、わたしたちは「あなたのいのちに意味がある」という真実をどのような言葉(かたち)で届けていけるだろうか。(桑島)



聖書の重要なテーマであると同時に、キリスト教神学の中心的な課題である『苦難と救済』について、様々な学問的立場の研究者たちが多角的に探求する論集。苦しみの神学的意義に迫る11の洞察。

● 四六判・400頁・本体3,200円

苦難と救済 闇の後に光あり 野村信／吉田新編



社会学者また一個人としてのユニークな視点で聖書テキストに真摯に向き合い、そこから思いがけず生じてくる喜びの出来事へと読者を誘う、新しい聖書研究。今作では旧約新約から12のテキストを扱う。

● 四六判・280頁・本体1,800円

続・社会学者、聖書を読む

高橋由典 著



現代日本に隠れている子どもたちの惨状を知っていますか？ 子どものシエルター活動、若者の自立援助、ホームレス支援等、さまざまな現場の声に社会的な知見を加えて、貧困にさらされる子どもたちの「人として生きる権利」を守る道を探ります。

● 四六判・238頁・本体1,800円

奪われる子どもたち 貧困から考える子どもの権利の話

富岡キリスト教センター編

「旧約聖書のあらゆる記述はキリストの救いの予型である」とするキリスト教会の聖書解釈の伝統を受け継いだアウグスティヌスが、会衆の理解度や興味に応じて緩急自在に即興的表現も交えて語った第54―75編の説教を収録。

● A5判・736頁・本体7,500円

アウグスティヌス著作集

19/I 詩編注解(3)

佐藤真基子／片柳榮一／水落健治 訳



第Ⅱ期第18回
通算34回配本



平和憲法とともに

深瀬忠二の人と学問 / 稻正樹・中村睦男・水島朝穂編

恵庭・長沼訴訟などの憲法裁判を戦いつつ、画期的な平和的生存権の理論構築に貢献した著者の遺産と課題。27名の論者が憲法学や運動論、信仰面について記す。◆四六判・本体2000円

政治神学の想像力

政治的実践としての典礼のために

ウイリアム・キヤヴァノー / 東方敬信・田上雅徳訳

世界を席卷するネオリベリズムにキリスト教はいかに対抗しうるのか。ラディカル・オースドキシシーからの提言。◆四六判・本体2500円

未完の独立宣言

2・8朝鮮独立宣言から100年

在日本YMCA編 百年前の東京で留学生たちによって発せられ、三・一独立運動の発火点となった先駆の宣言。

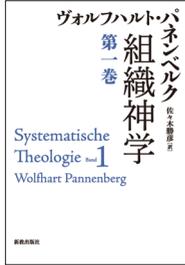
背景・思想・影響をめぐる総合研究。◆四六判・本体2500円

組織神学 第一巻 (全三巻)

ヴォルフハルト・パネンベルク / 佐々木勝彦訳

待望の邦訳がいよいよ開始。方法論的意識に貫かれた記述。第一巻は組織神学の性格、キリスト教の真理性の意

味および神論を論じる。◆A5判・本体9000円



新規オンデマンド化!

荊冠の神学 被差別部落解放とキリスト教

栗林輝夫

◆A5判・本体7800円

部落差別を発生させる文化的機制を精緻に分析し、差別の批判と克服のためのキリスト教的視座を確立した日本における解放神学の記念碑的著作。

荊冠の神学
被差別部落解放とキリスト教
栗林輝夫著

新教出版社

本
の
ひ
ろ
ば
一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一〇年三月一日発行 毎月一回一日発行
第七四七号 二〇一〇年三月号

発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町9-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3260-6148 振替00117-0511-16779
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 佛平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3260-1567

定価七八円(税抜七一円) 763円
一年分一三〇〇円(送料共)